

障害者支援施設 障害者福祉センター厚和寮

1 基本方針

障がいのある方に対し、快適な施設生活が送れるよう介護サービス提供の充実を図ると共に、地域や家庭での新たな生活に向けて安心して移行できるよう支援を行う。

また、在宅の障がい者に対しては安心安全な日中活動の場所を提供し、ケアマネジメントの手法を活用して社会リハビリテーションを中心とした各種サービスを提供し、地域生活に必要な社会生活力を高めると共に、地域資源との連携の中で自立と社会活動への参加を目指した支援を行う。

2 利用者の状況（令和5年3月31日現在）

(1) 入所者状況

(人)

利用人数		前年度末利用者数	令和4年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数	
区分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別									
					地域移行		家庭復帰	施設移管	契約解除(入院等)	死亡				
生活介護	60	66	5	8	0	0					0	1	6	1
施設入所支援	40	40	3	1	0	0	0	0	0	1	14,827	101.5%	42	
3 轉	生活介護	60	72	7	13	0	0	0	9	2	2	13,301	82.4%	66
	施設入所支援	40	42	3	5	0	0	0	1	2	2	14,707	100.7%	40

(2) 障害支援区分

①生活介護

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	1	16	16	9	3	45
女性	0	0	0	7	7	3	0	18
計	0	0	1	24	23	12	3	63

②施設入所支援

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	1	8	12	6	3	30
女性	0	0	0	5	5	2	0	12
計	0	0	1	13	17	8	3	42

3 事業の実施状況

(1) 安定した経営をめざす

年度スタートは入所利用者40名であったが1名の退所と3名の入所があり、現在は42名の入所利用となっている。

年度当初入所待機者は17名(男性：11名、女性：6名)あったが、入所された3名はその待機者からではなく、精神科医院からの退院受け入れ2名と在宅生活者の緊急短期利用からの受け入れであった。いずれも事前情報が乏しく現在も施設生活順応に苦慮している。

また、現在も待機者は20名(男性：13名、女性：7名)あるが、個室ニーズが高く入所調整はさらに困難になると思われる。

通所利用者に関しては昨年度コロナ禍による外出不安等により、例年より多い8名の利用終了者があったが、今年度は4名の利用終了となっている。

3名は高齢化に伴う身体状況の悪化と1名は転居によるものであった。

また、新規利用者は1名に止まっている。より幅広く関係機関に情報を求めていく必要がある。

短期入所についても目標稼働率を達成することは出来なかった。

しかし、在宅障がい者の地域生活に問題が発生するのは突然であり、修復が困難なことが多くなっておりそのまま入所ニーズに変わることが多くなっている。

施設経営としては少しでも稼働率を上げたいところではあるが、入所枠1名の余裕を持つことで、緊急入所を受け入れ、地域の社会資源として機能させることの方が有用と思われる。

・稼働率：生活介護78.6%（目標88%）、施設入所支援101.5%（目標102%）、短期入所37.3%（40%）

建て替えに向け友愛寮と「合築」の検討を進めた。

現在の利用待機者ニーズに応える機能と、これまでの友愛寮・厚和寮歩みの中から培った強みを発揮できる施設のコンセプトを早急に定めたい。

解体補助金が申請できる期限は令和10年度までとなっているが、コロナ禍における事業団全体の収支状況の悪化と、建築資材等の急騰に伴い改築スケジュールが流動的となっている。既存施設の修繕計画を含め事務局との連携を強化していきたい。

福祉センター内における給食提供体制などの全体構想を踏まえながら、友愛寮及び事務局と情報共有し、次年度については計画の進展を図りたい。

(2) ひとり一人の自己実現を目指したサービスの提供

本人ニーズの引き出しを一番に家族の意向も聞き取りながら、定期的にカンファレンスを開催をした。

8月、現地域生活者のより豊かな生活と入所利用者の地域移行の推進を目標に「地域生活応援プロジェクト」を立ち上げた。緒に就いたばかりではあるが実地で生活場面を確認させていただき、生活上の課題や潜在リスクを確認しその解消に取り組んでいる。

また、地域移行についても事業の活用により来年度前半には1名のグループホーム移行が見込める状況となっている。

「多職種連携」についても連携の強化が図られ、部署ごとに専門性の共有が見える。

(3) 地域共生の土壌作りに努める

コロナ禍により引き続き、実習やボランティアの受け入れは最小限とした。それでも、鳥取湖陵高校の現場実習はその必要性を鑑み、コロナの感染状況を睨みながら当初の予定回数の8割を実施した。

(4) 働きやすい職場作り

事務職員や上司の声かけにより、サービス残業禁止の徹底を行った。

月初めに職員朝礼で「厚和寮倫理綱領」を唱和し、意識の高揚を図った。

引き続きのコロナ禍により実地研修が減りweb開催が増えたため、その環境を整えた。

寮内の復命研修の機会を増やし、情報の共有に努めた。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
社会福祉士相談援助実習	5月	1人	2人
鳥取湖陵高校(現場実習)	6-12月	8人	40人
鳥取社会福祉専門学校	11-12月	5人	21人
計		14人	63人

(2) ボランティアの受入実績

鳥取湖陵高校、園芸セラピー

[延べ128人]

5 附帯事業

(1) 短期入所事業

定員 6名及び空床型

(2) 利用実績

(人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	19	847	19	681